

## 2012 年度 小委員会活動成果報告

(2013 年 2 月 27 日作成)

小委員会名	3次元設計教育小委員会		主 査 名：松島史朗 就任年月：2011 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	情報システム技術委員会		委員長名：加賀有津子
設 置 期 間	2011 年 4 月 ～ 2013 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>BIM、ICT、ものづくり技術等の新しい3次元設計技術やその活用事例を調査・共有し、創造的な建築設計プロセスやそのマネジメント技術を、教育の中で活かすための方法を検討する。</p> <p>初年度： 先端的な建築設計プロセスや技術活用事例の調査 効果的な教育手法開発のための検討 研究会の開催</p> <p>2年度： 先端的な建築設計プロセスや技術活用事例の調査 効果的な教育手法開発のための検討 研究会の開催 研究活動成果のとりまとめ</p>		
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：有		
	主査：松島史朗 (豊橋技術科学大学) 幹事：下川雄一 (金沢工業大学) 委員：大西康伸 (熊本大学)、加賀有津子 (大阪大学)、川角典弘 (和歌山大学)、木村謙 (エアアンドエー)、中田千彦 (宮城大学)、福田知弘 (大阪大学)、前稔文 (大分工業高等専門学校)、村上祐治 (東海大学)、竹中司 (豊橋技術科学大学/アンズスタジオ)、中澤公伯 (日本大学)		
設置 WG (WG 名：目的)	<b>教育モデル研究WG</b> ：小委員会活動計画の「教育手法開発のための検討」については、当WGにて、調査した先端事例の分析や効果的な教育手法開発に向けての集中的な議論を行う。2年目では冊子等の媒体にまとめる上での中心的役割を担う。		
2012 年度予算	360,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP： <a href="http://www.ajj.or.jp/gakujutsushinko/m-000/m020-12.html">http://www.ajj.or.jp/gakujutsushinko/m-000/m020-12.html</a> <a href="http://www.facebook.com/pages/日本建築学会-情報システム技術委員会-3次元設計教育小委員会/106729342779098">http://www.facebook.com/pages/日本建築学会-情報システム技術委員会-3次元設計教育小委員会/106729342779098</a>	

項 目	自己評価
委員会開催数	3 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) * 能力開発支援事業委員会承認企画	1. 第 35 回情報・システム・利用・技術シンポジウム ・小委員会企画 OS「3次元デジタルツールと建築教育」 参加者数 23 名 『第 35 回情報・システム・利用・技術シンポジウム論文集』所収 2. 建築情報教育研究会「米国と日本での実践にみる新しい建築設計教育のかたち」 参加者数 28 名
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	

<p><b>目標の達成度</b> (当初の活動計画と得られた成果との関係)</p>	<p>当初の各活動計画に対して、それぞれ以下のような達成度であることから、全体としての目標の達成度は80~90%程度と考えられる。</p> <p>1. 先端的な建築設計プロセスや技術活用事例の調査 80%</p> <p>2. 効果的な教育手法開発のための検討 80%</p> <p>3. 研究会の開催 100%</p> <p>特に最終年度である今年度は5年ぶりに全国大学および高専に対して、建築情報通信教育に関して、授業内容、コンピュータ台数、管理者等の環境についてアンケートを行った。その結果は研究会で発表し、何らかの形で世に刊行することを検討している。</p>
<p><b>委員会活動の問題点・課題</b></p>	<p>1. 委員が地方に分散していることもあり、十分な委員相互のコミュニケーションがとりづらい。</p> <p>2. メールでの議論が続きにくい。</p> <p>3. 年度後半から主査がサバティカルを取得して渡米したため、これもコミュニケーションの問題につながっている。建築情報教育の観点から、遠隔地授業のシステムなどを試す機会は多く持てたが、実質的な小委員会運営については、どうしても、国内にいる委員が主導する形になっていた。</p>
<p><b>その他</b></p>	